


平成 30 年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2019

新潟県長岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立って実施した試掘・確認調査、開発工事中に実施した立会調査の報告である。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、加藤（2・3）、山賀（4・5・6・7）、鳥居（8・9）、新田（10）で分担し、編集は山賀が行った。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 土層柱状図における  は遺物包含層を示す。
6. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
7. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方から御協力、御教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。

公益社団法人移動通信基盤整備協会 国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所 株式会社スコット
株式会社ソフトバンク 株式会社太陽工機 株式会社長測 株式会社テック 柏 燕市産業振興部農政課
社会福祉法人浄英会恵和子ども園 高橋調査設計株式会社 新潟県長岡地域振興局農林振興部農地整備課
新潟県長岡地域振興局都市整備部都市・道路整備課 新潟県教育庁文化行政課 吉乃川農産株式会社
駒形敏朗

目 次

1	平成 30 年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2	分水西部地区試掘調査	3
3	草薙遺跡確認調査	6
4	蓮瀧地区試掘調査	7
5	蓮瀧地区試掘調査	8
6	雲出谷内遺跡確認調査	10
7	喜多町地区試掘調査	11
8	宮内地区試掘調査	12
9	早田北遺跡確認調査	13
10	浦地区試掘調査	14



第 1 図 長岡市の位置



写真 1 調査風景（蓮瀧地区）

1 平成30年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

平成30年度に長岡市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査は9件である。このほか、諸開発に伴う立会調査を7件実施した（平成31年3月1日現在）。平成24年度以降、試掘・確認調査件数は横ばい傾向が続いていたが、今年度は増加に転じている。一方、立会調査の件数は、横ばいであった。調査原因を見ると、寺泊地域では県営ほ場整備事業や県営かんがい排水事業などの農業関連の事業が調査原因となっているが、その他の地域では農業関連の事業はなく、公共事業から個人住宅の建設まで多岐にわたる。今年度は本発掘調査の実施はなく、平成29年度に実施した稲場遺跡発掘調査の報告書刊行に向けた整理作業が実施された。本発掘調査の件数は、平成21年度をピークに平成25年度までは横ばいだったが、その後徐々に減少し、最近では本発掘調査に至るケースはほとんどない。

本年度実施した試掘・確認調査の結果について概観する。実施した9件のうち、遺物が検出されたのは1件であった。

このうち、燕市営ほ場整備事業に伴う分水西部地区における試掘調査では、土師器が1点出土したものの、それ以上の遺物及び遺構が発見されず、遺跡は存在しないと判断され、新規登録には至らなかった。県営かんがい排水事業に伴う草薙遺跡の確認調査では、攪乱を受けており遺構・遺物は確認されなかった。携帯電話基地局建設に伴う早田北遺跡では、すでに新幹線高架の橋脚設置によって遺跡が破壊されていることを確認した。民間企業による駐車場建設に伴う雲出谷内遺跡の確認調査では、近接する袖谷内遺跡との間での調査だったが、遺構・遺物が検出されなかったため、調査地まで遺跡が広がらないことを確認した。この調査結果をふまえて、両遺跡の範囲を変更した。立会調査では、いずれの調査地においても遺構・遺物は発見されなかった。

今年度の調査では、本調査あるいは遺跡の新発見となる調査はなかったが、埋没地形・地質等に関する多くの知見が得られるなど、今後の調査に役立つようなデータが蓄積されている。

第1表 平成30年度長岡市内遺跡調査一覧（本書掲載の調査はゴシック体で示した）

地域	地区	調査原因	結果など
寺泊	幕島遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構・遺物なし
	草薙遺跡	県営かんがい排水事業	立会 遺構・遺物なし
	分水西部地区	燕市営ほ場整備事業	試掘 遺構なし・土師器
	草薙遺跡	県営かんがい排水事業	確認 遺構・遺物なし
長岡	長岡城跡	個人住宅建設	立会 遺構・遺物なし
	蓮潟地区	産業団地整備事業	試掘 遺構・遺物なし
	長岡城跡	個人住宅建設	立会 遺構・遺物なし
	大沼城跡	電柱建替え	立会 遺構・遺物なし
	喜多町地区	道の駅建設	試掘 遺構・遺物なし
	雲出谷内遺跡	駐車場建設	確認 遺構・遺物なし
	宮内地区	県道整備事業	確認 遺構・遺物なし
	蓮潟地区	保育園施設建設	試掘 遺構・遺物なし
	早田北遺跡	携帯電話基地局建設	確認 遺構・遺物なし
	西谷遺跡	個人車庫建設	立会 遺構・遺物なし
越路	飯塚原A遺跡近接地	駐車場建設	立会 遺構・遺物なし
	浦地区	工場地造成	試掘 遺構・遺物なし
和島	川東遺跡	神社境内地整備	立会 *3月中に実施予定



第2図 平成30年度調査位置図 (1/250,000)

2 分水西部地区試掘調査

調査地	長岡市寺泊蛇塚	調査面積	196 m ² (対象面積 49,773 m ²)
調査期間	平成 30 年 10 月 22 日～26 日	調査担当	加藤由美子

調査に至る経緯 平成 30 年 10 月 18 日付け燕農第 1301 号で、燕市長から長岡市教育委員会へ分水西部地区土地改良事業（ほ場整備事業）A 工区についての埋蔵文化財の試掘調査の依頼があった。事業予定地周辺では過去に発掘調査は行われておらず、遺跡の有無は不明であった。一方、燕市教育委員会による事前の現地踏査で土師器片が数点採集されており、未周知の遺跡が存在する可能性が考えられたため、長岡市教育委員会が事業着手前に試掘調査を実施した。

調査地の概要 日本海に沿って伸びる東頸城丘陵の西側丘陵の内陸側に位置する。現状は水田で標高は約 9.5m である。一帯は明治時代までは大小の潟湖が点在する低湿地であったが、大河津分水路の開削に伴い乾田化が進み、現在は美田が広がる。調査地の北に位置する竹ヶ花集落の独立丘陵上には、新羅王の墓と伝えられる塚がある。また、同丘陵上でかつて弥生土器が採集されたという記録が残る。

調査の結果 事業対象地に 2m×2m のトレンチを 49 箇所設定した。掘削はバックホウと人力で行い、調査後に埋め戻しを行った。基本層序は地点により 2 つのタイプに分けられる。①植物腐植土と粘質土の互層を基本とする層序と、②砂と粘質土の互層を基本とする層序である。調査トレンチの大半は①の層序で、低湿地由来の植物腐植土が厚く堆積する極めて軟弱な地盤である。②の層序は水の流れによって運ばれたと思われるきめの細かい青色シルト層が顕著であり、旧自然河道などが層の形成に関係していると思われる。調査の結果、いずれのトレンチでも遺構は確認されず、遺物包含層も認められなかった。出土遺物は 2 T の地表下 125cm の粘質土中から土師器の細片が 1 点出土したのみである。摩耗が激しい個体で、他所からの流れ込みの可能性も考えられる。

以上のことから、調査地内に遺跡は存在しないと判断し、その旨を事業者である燕市に伝えた。



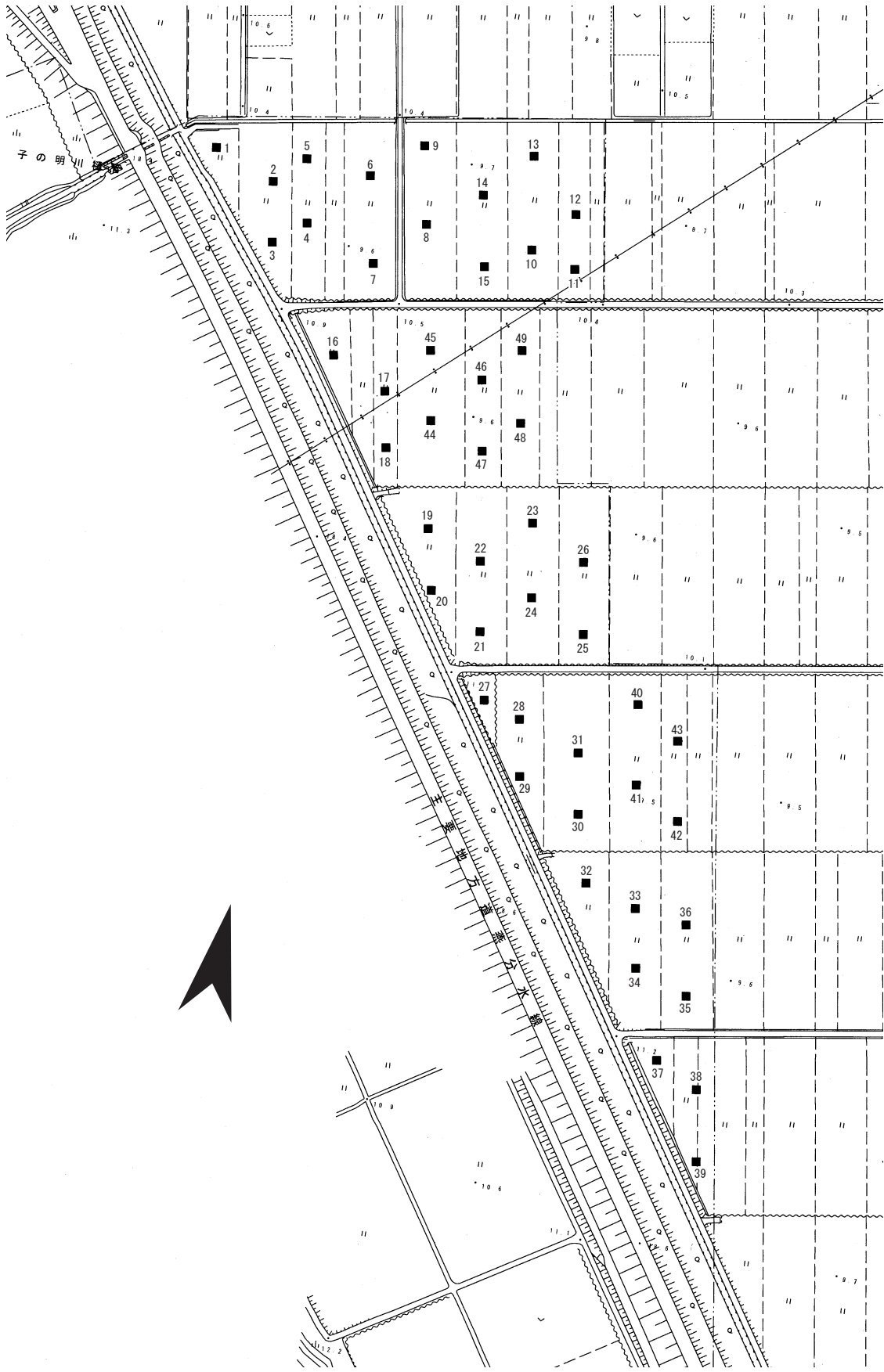
第 3 図 調査位置 (1/50,000)



写真 2 調査地全景



写真 3 調査風景



第4図 トレンチ位置 (1/3,500)



写真4 10 T完掘状況

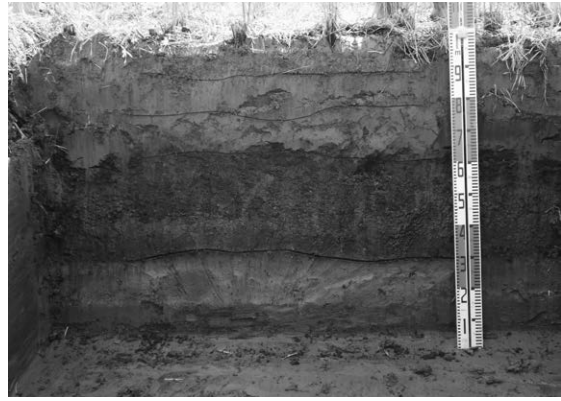


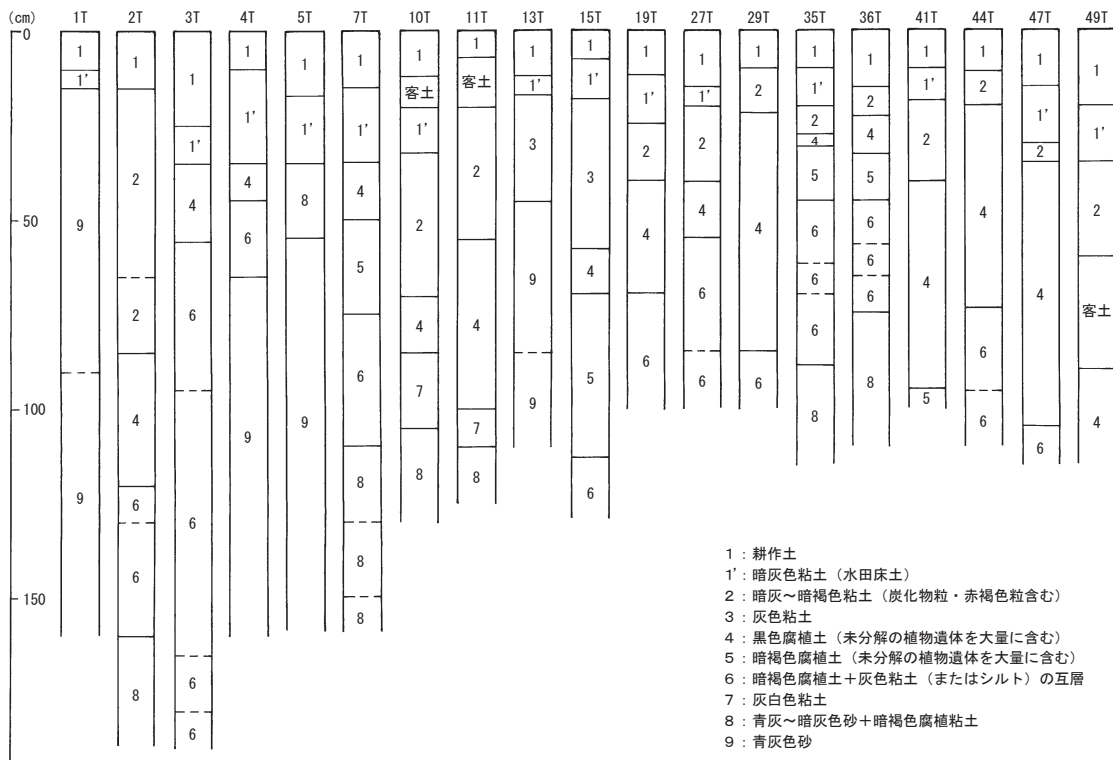
写真5 19 T完掘状況



写真6 27 T完掘状況



写真7 35 T完掘状況



- 1 : 耕作土
- 1' : 暗灰色粘土 (水田床土)
- 2 : 暗灰~暗褐色粘土 (炭化物粒・赤褐色粒含む)
- 3 : 灰色粘土
- 4 : 黒色腐植土 (未分解の植物遺体を大量に含む)
- 5 : 暗褐色腐植土 (未分解の植物遺体を大量に含む)
- 6 : 暗褐色腐植土+灰色粘土 (またはシルト) の互層
- 7 : 灰白色粘土
- 8 : 青灰~暗灰色砂+暗褐色腐植粘土
- 9 : 青灰色砂

第5図 土層図 (1/40)

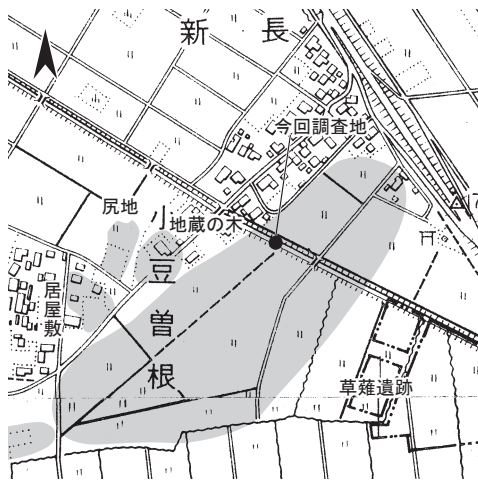
3 草薙遺跡確認調査

調査地	長岡市寺泊新長	調査面積	12 m ² (対象面積 33 m ²)
調査期間	平成 30 年 11 月 27 日	調査担当	加藤由美子

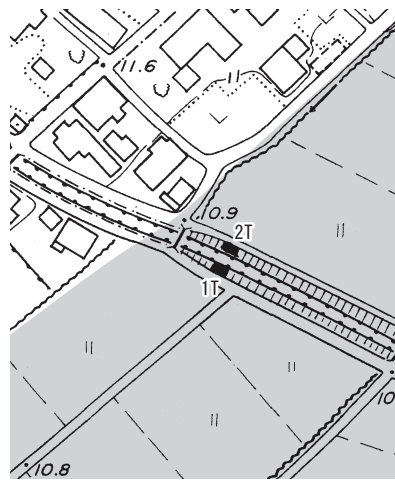
調査に至る経緯 平成 29 年 12 月、新潟県長岡地域振興局農林振興部農地整備課から県営かんがい排水事業（大河津地区五千石排水路）に係る埋蔵文化財の取扱いについて照会があった。照会地は草薙遺跡（長岡市 No.1049）の範囲に含まれるため、新潟県教育委員会の指示の下、工事に先立ち長岡市教育委員会が確認調査を行った。

調査地の概要 草薙遺跡は埋没河川の自然堤防上に位置する縄文時代晩期、弥生時代中・後期、古墳時代期、古代に断続的に営まれた集落遺跡である。標高は 10.6m で、現況は水田である。平成 20・21 年度に長岡市教育委員会が県営ほ場整備事業に伴う本発掘調査を行い、遺跡を縦断する埋没河川が確認された。弥生時代後期から古墳時代前期の土器と木製品が出土している。

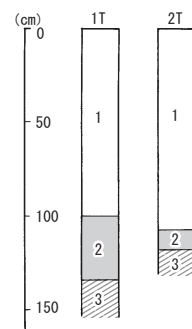
調査の結果 工事で掘削が及ぶ部分に 2 m × 3 m のトレンチを 2 箇所設定した。調査ではバックホウで掘削し、その後人力で精査を行った。基本層序は、1 層：明茶褐色粘質土（以前の排水路工事に伴う客土）、2 層：暗黒褐色粘質土（遺物包含層）、3 層：明黄褐色粘質土（地山）である。調査区内は昭和期に行われた排水路工事による攪乱が広く及んでおり、遺物包含層の残りも悪い状態であった。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



第 6 図 調査位置 (1/10,000)



第 7 図 トレンチ位置 (1/2,500)



第 8 図 土層図 (1/40)



写真 8 調査風景



写真 9 2 T 土層堆積状況

4 蓮瀉地区試掘調査

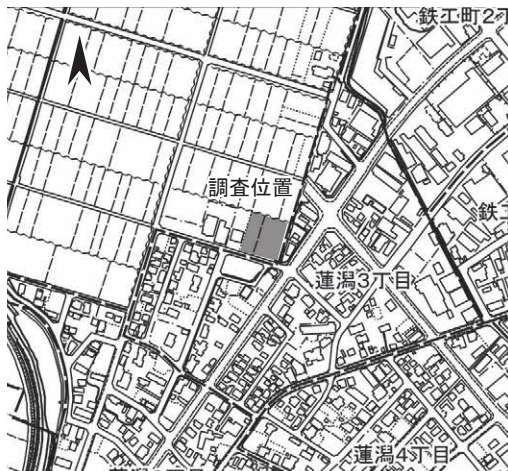
調査地	長岡市蓮瀉町	調査面積	48.1 m ² (対象面積 2,550 m ²)
調査期間	平成 30 年 11 月 6 日	調査担当	山賀和也

調査に至る経緯 社会福祉法人恵和こども園（以下、事業者）では、隣接した場所に関連施設及び駐車場の建設計画があり、埋蔵文化財の取り扱いについて、長岡市教育委員会（以下、市教委）に照会があった。市教委は、事業計画地には周知の埋蔵文化財は存在しないが、未周知の遺跡が存在する可能性があるため、試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認する必要がある旨を伝えた。調査は、事業の進捗状況に合わせて秋に実施することで合意した。

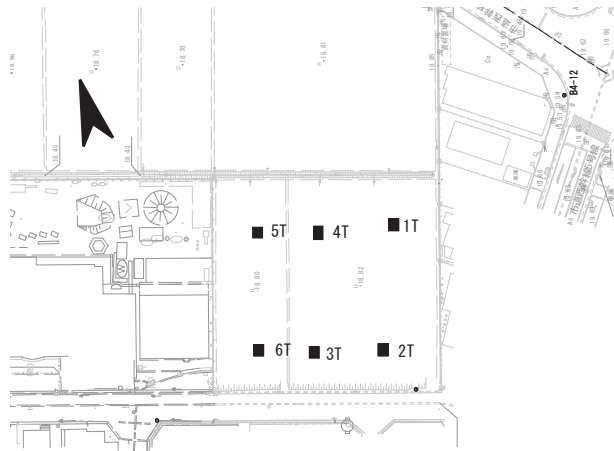
調査地の概要 調査地は信濃川左岸の沖積地に位置しており、標高は 18.8m である。現在は水田となっている。調査地の西側には道満川が流れている。

調査の結果 調査対象地にトレンチを 6 箇所を設定し、バックホウと人力で慎重に掘削を行った。調査区全体に現地表面から 120 cm 付近で青灰色粘土層が堆積していることを確認した。地形から上野町が自然堤防上に位置しその周辺が旧河道であることが分かるが、5 で報告する産業団地整備事業に伴う調査の結果と合せて、土の堆積からも確認することができた。

調査の結果、遺構・遺物ともに発見されなかったため、事業計画地には遺跡は存在しないと判断し、工事に支障がないことを事業者に伝えた。



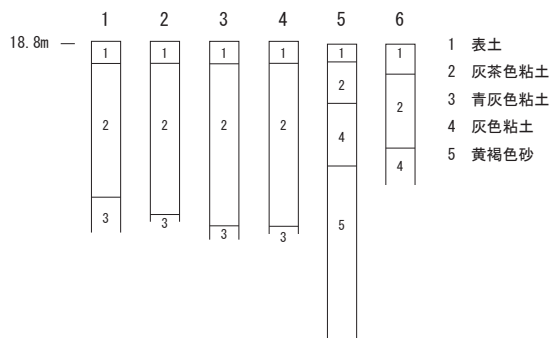
第 9 図 調査位置図 (1/10,000)



第 10 図 トレンチ配置図 (1/2,000)



写真 10 1 T 土層断面 (南西から)



第 11 図 土層柱状図 (1/50)

5 蓮瀉地区試掘調査

調査地	長岡市蓮瀉町	調査面積	1256.96 m ² (対象面積 38ha)
調査期間	平成 30 年 6 月 12 日～7 月 5 日	調査担当	山賀和也

調査に至る経緯 蓮瀉地区において長岡北スマート流通産業団地整備事業が計画され、平成 29 年 9 月 25 日に埋蔵文化財の取り扱いについて長岡地域土地開発公社と協議を行った。長岡市教育委員会は、事業計画地には周知の埋蔵文化財は存在しないが、大規模な開発になることから試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認する必要がある旨を伝えた。その後、調査位置や時期などの詳細な協議を重ね、調査は平成 30 年夏に実施することで合意した。

調査地の概要 調査地は信濃川左岸の沖積地に位置しており、標高は 18.0～18.5m である。現在は水田となっており、調査地の西側に道満川が流れている。周辺には、遺跡は所在しないが、調査地の西方約 4 km とやや離れている地点に縄文時代後期の根立遺跡が位置している。平成 26 年度には今回の調査地の北側で長岡北スマート IC 建設に伴う試掘調査を実施しているが、遺跡は発見されなかった。

調査の結果 事業計画地に 195 箇所を設定し、バックホウで慎重に掘削を行った。全体的に灰色を基調とした粘土層が堆積しており、標高 17.5m 付近から下には青灰色粘土～砂が堆積していることを確認した。調査の結果、いずれのトレンチも遺物、遺構は発見されなかったため、事業計画地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者へ伝えた。



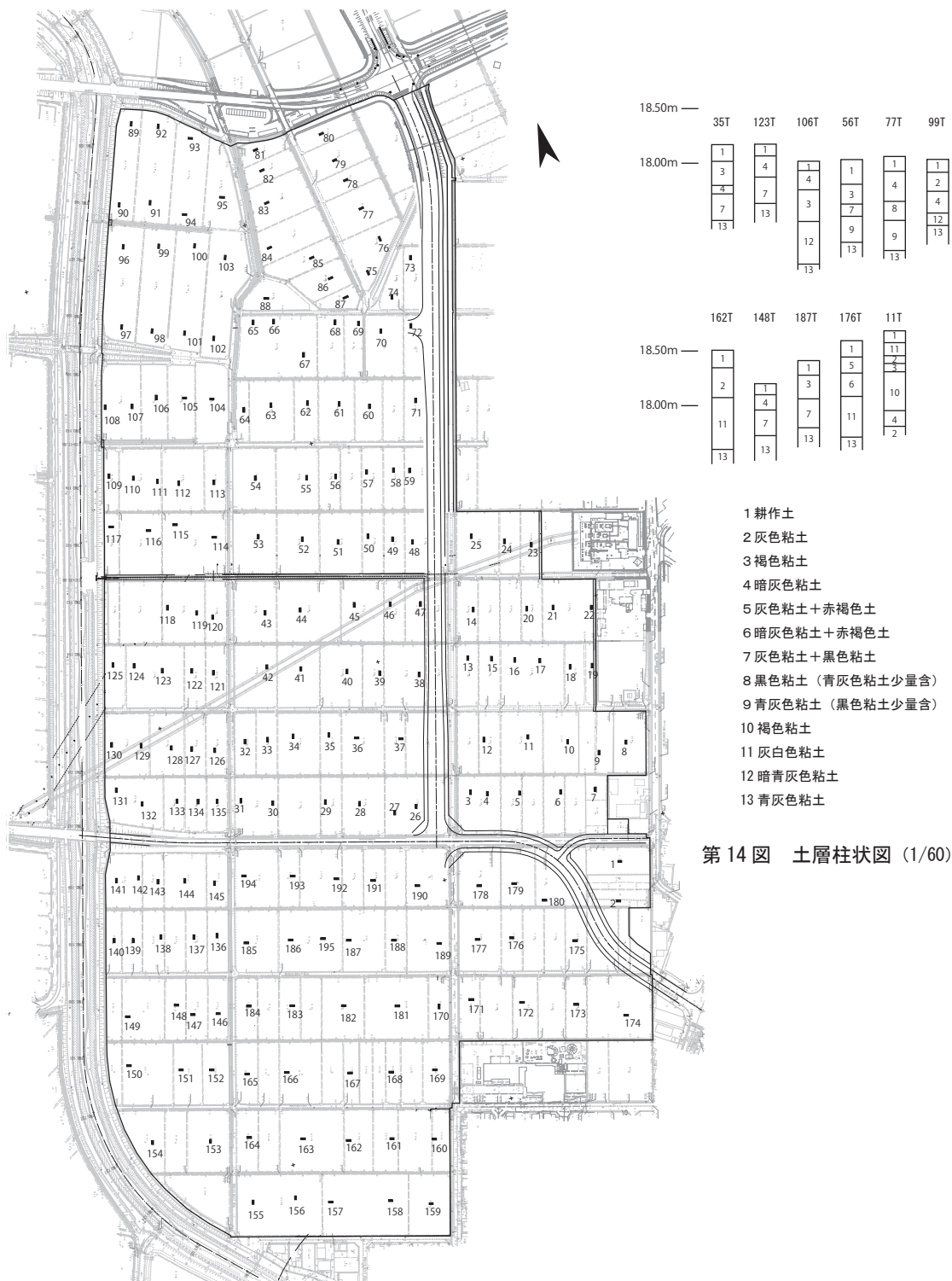
第 12 図 調査位置図 (1/50,000)



写真 11 調査地近景 (南から)



写真 12 56 T 完掘状況 (南から)



第14図 土層柱状図 (1/60)

第13図 トレンチ配置図 (1/6,000)

6 雲出谷内遺跡確認調査

調査地	長岡市雲出町	調査面積	114.9 m ² (対象面積 9,500 m ²)
調査期間	平成 30 年 10 月 16 日～17 日	調査担当	山賀和也

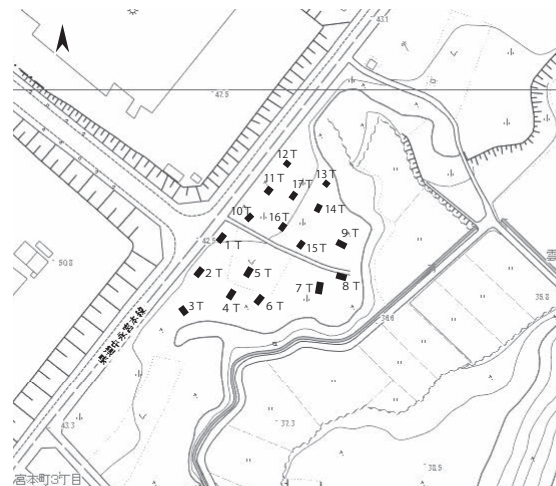
調査に至る経緯 平成 24 年 10 月 5 日に株式会社太陽工機（以下、事業者）から駐車場建設事業計画に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。当初、候補地を複数検討していたが、事業者が立地する雲出工業団地周辺には周知の埋蔵文化財が多く存在し、いずれの場所であっても、試掘確認調査が必要な旨を伝えた。その後、複数回にわたり協議を重ね、平成 30 年 6 月事業地が決定し、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。事業地には、雲出谷内遺跡が含まれており確認調査を実施し、遺跡の広がりを確認する必要があることを伝え、合意を得た。調査は、秋に実施することとした。

調査地の概要 調査地は信濃川左岸の東頸城丘陵から東に延びる台地上の先端部に位置しており、標高は約 42m である。かつては畑地として利用されていたが、現在は雑木林になっている。遺跡は、縄文土器及び中世陶器が数点採集されているのみで詳細は不明である。周辺にはすぐ南側に袖谷内遺跡が所在し、工業団地内には 7 世紀前半頃の大萱場古墳が所在している。

調査の結果 調査対象地にトレンチを 17 箇所設定し、バックホウ及び人力で掘削を行った。各トレンチでは、表土である暗褐色土（1 層）が 20～25 cm 程度堆積し、その下はしまりの強い明黄褐色土層（3 層）であった。調査地の中央部付近の 5・6・16T で、黒褐色土層（2 層）が堆積していた。事業計画地に遺構・遺物は発見されなかったため、遺跡は広がらないと判断し、これ以上の調査は必要ないことを業者に伝えた。



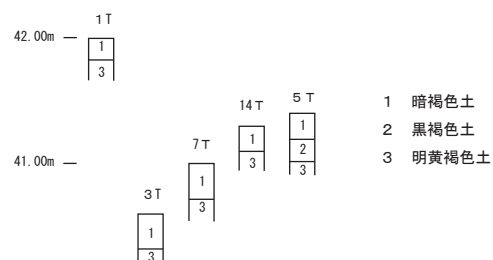
第 15 図 調査位置図 (1/15,000)



第 16 図 トレンチ配置図 (1/4,000)



写真 13 11 T 完掘状況 (北東から)

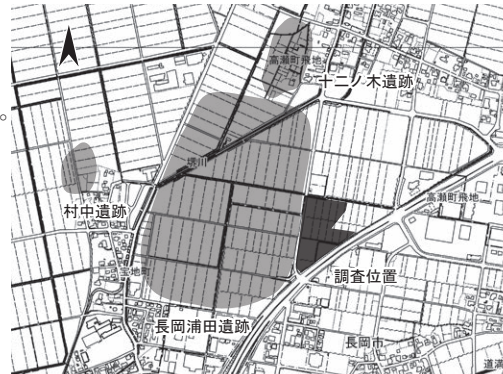


第 17 図 土層柱状図 (1/60)

7 喜多町地区試掘調査

調査地 長岡市喜多町 調査面積 143 m² (対象面積 28,400 m²)
 調査期間 平成30年10月10日～11日 調査担当 山賀和也

調査に至る経緯 道の駅「ながおか花火館（仮称）」整備事業は、長岡の花火をはじめとする地域資源を紹介し、交流人口の増加と地域経済の活性化を目的として計画された。平成29年9月に長岡市土木部土木政策調整課（以下、事業者）から埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。事業計画地の西側には長岡浦田遺跡（遺跡No.230）が位置しており、事業着手前に試掘調査を実施し、遺跡の広がりを確認する必要がある旨を伝えた。協議の結果、調査は事業の進捗に合わせて平成30年秋に行うこととした。

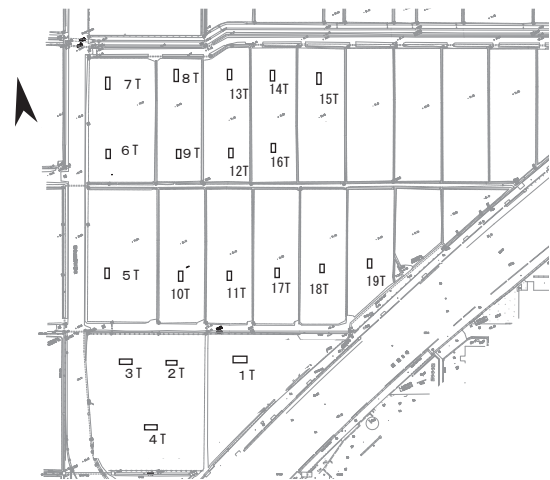


第18図 調査位置図 (1/20,000)

また、整備事業は、国土交通省と長岡市が実施するため、遺跡発掘調査についても国土交通省の事業地分は新潟県教育委員会が、長岡市の事業地分は長岡市教育委員会が担当した。

調査地の概要 調査地は信濃川左岸の沖積地に位置しており、標高は約21mである。西側に隣接する長岡浦田遺跡は、平成4年の遺跡分布調査で発見された遺跡で、古代の遺物が採集されている。このほか十二ノ木遺跡、村中遺跡が周辺の自然堤防上に位置している。十二ノ木遺跡の南端では、平成28年度に道路建設事業に伴う確認調査を実施したが、遺構・遺物は発見されなかった。

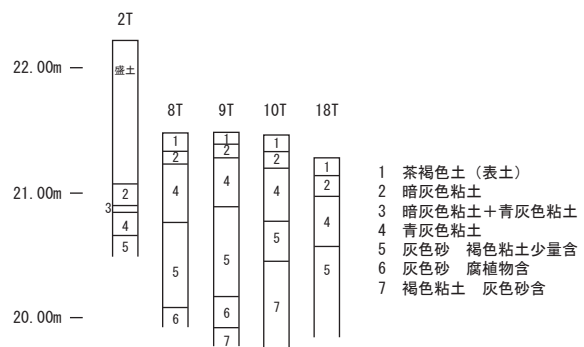
調査の結果 調査対象地にトレンチを19箇所設定し、バックホウと人力で慎重に掘削を行った。1～4Tは、以前は周辺の水田と同じ高さであったところに盛土をして現状の標高となっている。調査区全体に灰色粘土～砂層が堆積しており、かつての信濃川の河道だったと考えられる。調査の結果、遺構・遺物が発見されなかったため、事業計画地には遺跡は広がらないと判断した。



第19図 トレンチ配置図 (1/3,000)



写真14 9T土層断面（南から）



第20図 土層柱状図 (1/60)

8 宮内地区試掘調査

調査地 長岡市宮内町・上条町 調査面積 43.2 m² (対象面積 5,100 m²)
 調査期間 平成 30 年 10 月 19 日 調査担当 鳥居美栄

調査に至る経緯 一般県道滝谷三和線上条改良事業の計画に伴い、長岡市教育委員会は、事業者である新潟県長岡地域振興局地域整備部と協議を行い、道路法線計画地と事業に伴う個人住宅移転予定地について遺跡の試掘確認調査を行ってきた[長岡市教委 2017・2018]。法線内のうち試掘調査が行われていない範囲については、公有化終了後に試掘調査を行うこととなっていた。

調査地の概要 調査地は、信濃川右岸の沖積地内にあり、標高は約 24m である。上条町集落の南端にある八幡神社とその周辺は、戦国時代の上条城跡が所在するとされるが、平成 28 年度の調査では城館跡であることを示す遺構・遺物は確認できていない。周辺には、9～10 世紀の有力者層の集落とみられる上条遺跡や、上条谷内遺跡、山伏遺跡など、古代、中世の遺跡が点在する。

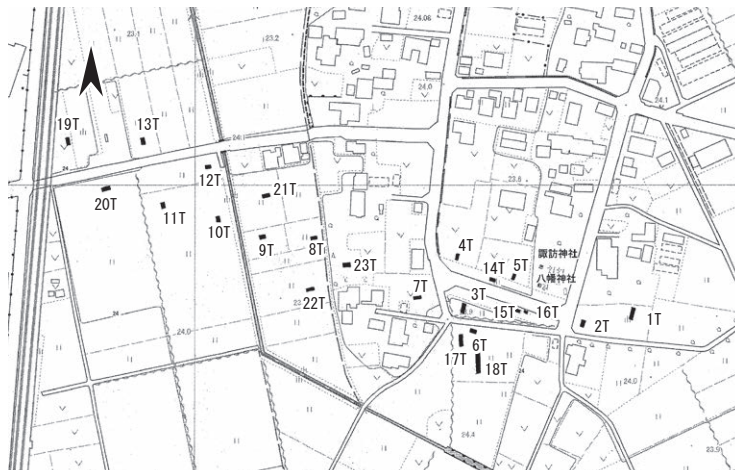
調査結果 調査対象地の任意の箇所調査トレンチを 5 箇所設定し、バックホウ及び人力で掘削を行った。トレンチ番号は、これまでの調査の続きである 19T から付した。集落西側の水田部分に設定した 19～22T の土層堆積状況は、平成 28 年度の試掘確認調査において確認したものとほぼ同様で、遺構・遺物ともに確認されなかった。集落内に設定した 23T では、平面形がやや隅丸の長方形を呈する土坑 2 基を検出したが、底面付近から近世以降の陶磁器片数点が出土した。事業地内に遺跡は所在しないと判断し、事業実施は支障ない旨を事業者に伝えた。



第 21 図 調査位置図 (1/20,000)



写真 15 22 T 完掘状況



第 22 図 トレンチ配置図 (1/5,000)

19T	20T	21T	22T	23T
1	1	1	1	1
2	2	2	2	4
2	2	3	3	
3	2	4	4	
4	3			
	4			

1 耕作土
 2 暗灰色～暗灰褐色粘土
 3 暗灰褐色～黒褐色土
 4 灰褐色～黄褐色シルト

第 23 図 土層柱状図 (1/20)

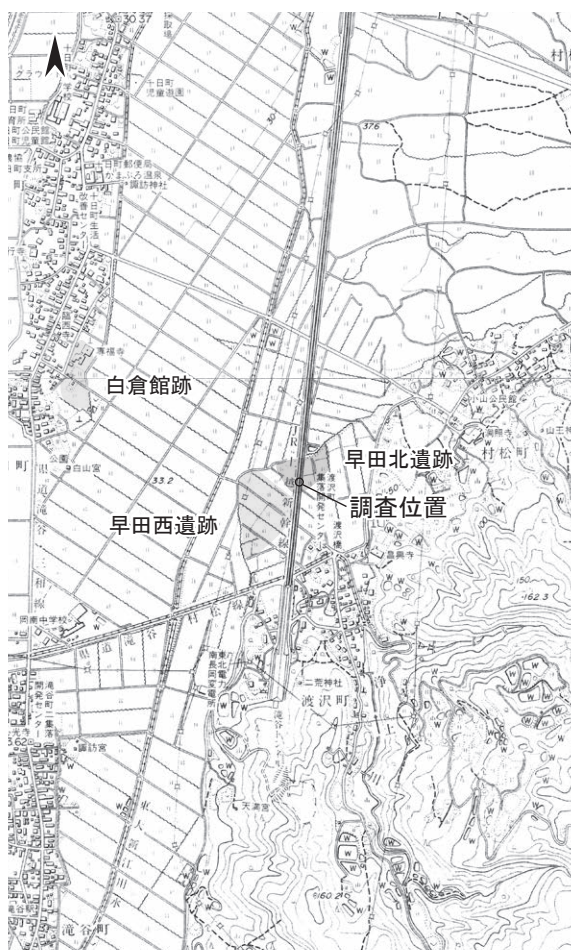
9 早田北遺跡確認調査

調査地	長岡市渡沢町	調査面積	1.26 m ² (対象面積 1.44 m ²)
調査期間	平成 30 年 11 月 27 日	調査担当	鳥居美栄

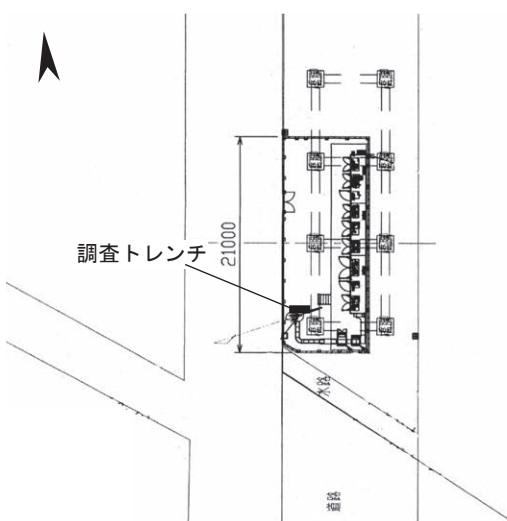
調査に至る経緯 平成 29 年 10 月、携帯電話基地局の新設計画地について埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があった。事業地は上越新幹線の高架下であるが、高架建設後に周知化された早田北遺跡の範囲内であった。事業地内の遺跡は橋脚設置により既に破壊されている可能性が高いと考えられたが、事業者には計画内容を確認したところ、電力引込柱の設置箇所については橋脚の基礎に影響を与える恐れがない位置とするということであったことから、協議の結果、遺跡の残存に備えて確認調査を実施することとした。事業者から調査用重機の提供を受けることとなった。

調査地の概要 調査地は、渡沢町集落の北約 300m、東山丘陵裾の扇状地の扇端に位置する。標高は約 42 m である。遺跡周辺の現状は水田・畑地であるが、上越新幹線の高架が遺跡のほぼ中央を南北に貫くように通る。遺跡では縄文土器、須恵器が採集されているが詳細は不明である。同一丘陵上の南西側に古代の早田西遺跡が近接する。

調査結果 電力引込柱の設置位置に調査トレンチを 1 箇所設定し、バックホウで掘削を行った。計画掘削深度の深さ 160 cm まで掘り下げたが、さらに下まで高架橋脚建設による埋土が続いており、遺跡が残存しないことを確認した。この調査結果から、工事実施は支障ない旨を事業者に伝えた。



第 24 図 調査地位置図 (1/20,000)



第 25 図 トレンチ配置図 (1/750)



写真 16 完掘状況

10 浦地区試掘調査

調査地 長岡市浦字原 調査面積 102.9 m² (対象面積 1,712 m²)
 調査期間 平成 30 年 8 月 17 日 調査担当 新田康則

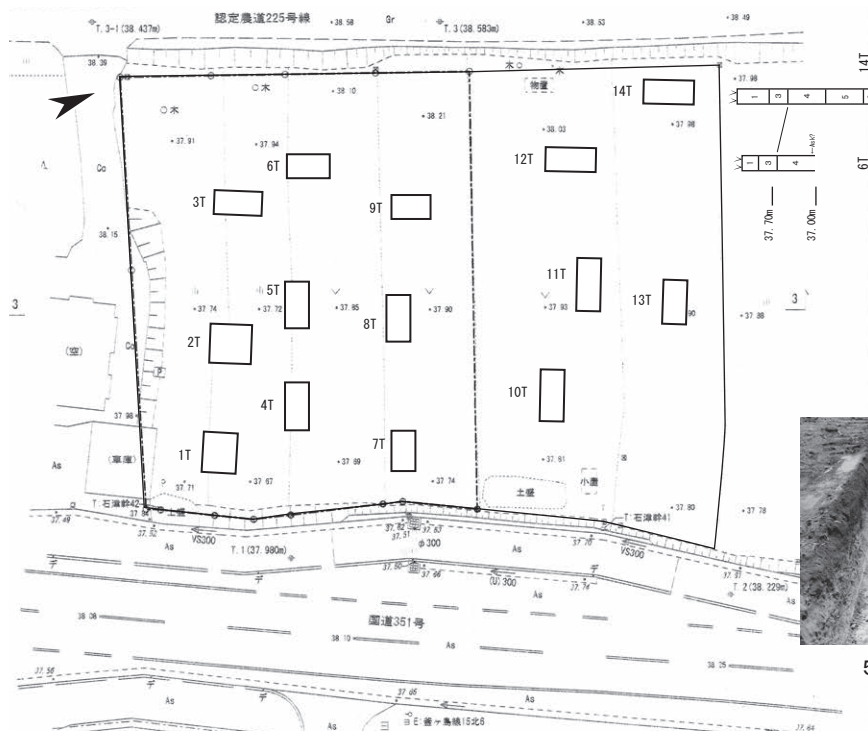
調査に至る経緯 平成 29 年 11 月 14 日、ライスセンター建設工事に係る埋蔵文化財の取扱いについての照会があった。照会地には周知の遺跡はないが、近隣で打製石斧が採集されていること(第 26 図★印)、現況畑地で旧地形が残り、遺跡包蔵の可能性があることから、事業地を盛土で造成し、建物基礎を盛土範囲内に収めて現況保存を図るよう協議するとともに、試掘調査を実施し、事後の協議に資することとした。

調査地の概要 信濃川左岸に形成された河岸段丘上に位置する。東を支流焼田川が流れる高台にある。

調査の結果 14 箇所の特レンチ調査を実施したが、遺構・遺物を検出することはできなかった。したがって、当該地に遺跡が包蔵されている可能性は極めて低く、本事業に対して埋蔵文化財保護行政上の更なる措置は必要ないと判断した。



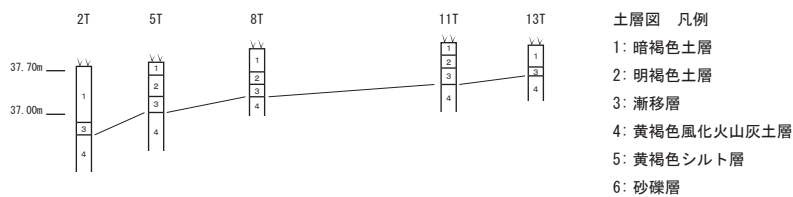
第 26 図 調査区位置図 (1/10,000)



14 T 土層堆積状況(南から)



5 T 完掘状況 (西から)



第 27 図 トレンチ配置図 (1/600)・土層柱状図 (1/60)

参考文献

寺泊町

1991 『寺泊町史』資料編1 原始・古代・中世

中村孝三郎

1966 『先史時代と長岡の遺跡』 長岡市立科学博物館

長岡市

1992 『長岡市史』資料編1 考古

長岡市教育委員会

2006 『平成17年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2007 『平成18年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2008 『平成19年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2009 『平成20年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2010 『平成21年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2011 『草薙遺跡』 長岡市教育委員会

2011 『平成22年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2012 『平成23年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2013 『平成24年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2014 『平成25年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2015 『平成26年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2016 『平成27年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2017 『平成28年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2018 『平成29年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

新潟県考古学会

1999 『新潟県の考古学』 高志書院

報告書抄録

ふりがな	へいせいさんじゅうねんどながおかしないいせきはつくつちょうさほうこくしょ						
書名	平成30年度長岡市内遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	山賀和也・鳥居美栄・新田康則・加藤由美子						
編集機関	長岡市教育委員会						
所在地	〒940-0084 新潟県長岡市幸町2丁目1番1号						
発行年月日	2019年3月29日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	東経			
くさなぎいせき 草薙遺跡	にいがたけんながおかしとらどまりしんちょうちない 新潟県長岡市寺泊新長地内	152021	1049	373734 1384933	20181127 20181127	12.0㎡	確認調査
くもいでやちいせき 雲出谷内遺跡	にいがたけんながおかしくもいでまちあざやち2579ほか 新潟県長岡市雲出町字谷内2579 ほか	152021	170	374634 1387560	20181016 20181017	114.9㎡	確認調査
そうだきたいせき 早田北遺跡	にいがたけんながおかしわたざわまちあざそうだり0ばん4ほか 新潟県長岡市渡沢町字早田90番4 ほか	152021	370	373791 1388443	20181127 20181127	1.3㎡	確認調査
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
くさなぎいせき 草薙遺跡	集落跡	弥生・古墳	なし	なし			なし
くもいでやちいせき 雲出谷内遺跡	遺物包含地	縄文	なし	なし			なし
そうだきたいせき 早田北遺跡	遺物包含地	縄文・古代	なし	なし			なし

平成30年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

平成31(2019)年3月29日 印刷

平成31(2019)年3月29日 発行

発行 新潟県長岡市教育委員会

印刷 株式会社第一印刷所